教育と社会Ｉ　（教育原理論）

（１）科目の紹介

<table>
<tr><td>基本情報</td><td colspan="3">平成 25 年度・教養教育・後期</td><td>曜日・校時</td><td colspan="2">木　２限</td></tr>
<tr><td>モジュール名</td><td colspan="3">教育と社会（Ｉ）</td><td>科目名</td><td colspan="2">教育原理論</td></tr>
<tr><td>教員名（所属）</td><td colspan="4">山岸賢一郎（教育学部）</td><td>教室</td><td>C-16</td></tr>
<tr><td>選択者数</td><td>９５ 名</td><td>1 年生の所属学部</td><td colspan="4">医学部　歯学部　環境科学部　工学部</td></tr>
<tr><td>再履修数</td><td>１ 名</td><td>工学部１名</td><td colspan="4">（１８名）（　３名）　（　６名）　（６８名）</td></tr>
<tr><td colspan="7">授業のねらい：
教育に関する基礎的な知見（歴史・哲学・思想等）を学びつつ，教育に関して「批判」的に考察する力，ひいては教育に関して「主体」的に考察する力を養う。</td></tr>
<tr><td colspan="7">アクティブ・ラーニングに向けて工夫した点：
1. 本授業のみでアクティブ・ラーニングを行うというよりは，同一モジュール内の他の授業，具体的には「教育行政・制度論」との連携を重視して授業を行った。たとえば，「教育行政・制度論」でグループワーク等を行い発表した事がらについて，その翌日の本授業において，さらに内容を掘り下げた講義を行い，講義内容も踏まえた小レポートをまとめさせる，など。あるいは逆に，本授業で紹介した事がらもヒントとして，教育行政・制度論でグループワークを行う，など。
2. Webclass を利用して講義資料を事前にアップロードするなどして，講義内容の予習を促した。
3. 講義は，毎回，教育に関する問いと，その問いをめぐる思考として構成した。また，講義内容が，教育に関する「批判」的な思考・多角的な思考の実例となるよう心掛けた。また，下に述べるように，学生の活動・思考のための時間を取り入れた。
4. 授業ごとに選択式の課題を提示し，個々人で小レポートをまとめさせた。次回授業時には 20-30 分程度かけてその小レポートの一部（7-10 程度）を紹介したうえで，今後（今後の本授業や，最終レポート作成時に，あるいは教育行政・制度論における発表の際などに）思考・留意すべき点を示した。
5. わずかではあるが，他の学生の意見を受けて，自分の考えを整理・深化するための時間も設けた。</td></tr>
</table>

（２）学修の評価

到達目標	教育に関する事がらについて，哲学的ないし歴史的ないし社会学的な視点から，「批判」的に考えることができる。ひいては，「主体」的に教育について考えることができる。
成績評価の方法	1. 授業ごとの小レポート（３０％） 2. 最終レポート（７０％）：　授業で取り扱った問いを一つ選択し，授業よりも深めるためのレポート 学生に示したレポートの採点基準は以下の点など：　「根拠（理由）を提示しながら論を展開しようとする姿勢がみえるか（たとえば，必要に応じて文献調査を行った上で，データを示したり，史料や資料や具体例を示したり，自分がそのように考える理由を言葉を尽くして説明したりしているか)。」　「授業中に授業者が根拠を挙げて説明したり批判したりした事がらを，知らないままに（再批判するでもなく無視する

	などして)，単なる誤解（真理性を疑いうる世間的な常識，偏見）に基づく議論になっていないか。」

（３）授業の進行

概　要：
　教育の過去・現在に関する基本的な事項を学ぶ（「子ども」や「学校教育」の歴史，「若者」「家族」をめぐる諸議論，所謂「ゆとり」教育や「道徳教育」をめぐる教育政策，など)。そのうえで，教育の過去・現在・未来について「批判」的に思考する。

回	学習内容	授業方法（講義、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ、ﾌﾟﾚｾﾞﾝなど）
1	オリエンテーション／「子ども」とは？	講義＋小レポート
2	「学校」とは？	小レポートの紹介＋講義＋小レポート
3	議論を深めよう①　（テーマ：なぜ学校に行かなければならないのか？）	他の学生の意見も受けて，自分の考えを整理・深化する。なお，テーマは学生へのアンケートに基づく。
4	「戦中の教育」はどんなだった？	小レポートの紹介＋講義＋小レポート
5	「教育基本法」とは？	同上
6	青少年は「凶悪化」した？	同上
7	「児童虐待」は激増した？	同上
8	「家庭の教育力」は低下した？	同上
9	若者は「自立」していないのか？	同上
10	「ゆとり教育」で「学力低下」した？	同上

11	議論を深めよう②　（所謂「ゆとり」教育をどう考えるか？）	他の学生の意見も受けて，自分の考えを整理・深化する。なお，テーマは学生へのアンケートに基づく。
12	「公徳心」とは何か？（道徳教育について）	小レポートの紹介＋講義＋小レポート
13	「ジェンダー」と教育をどう考えるか？	同上
14	「学校の先生」は大変？	同上
15	議論を深めよう③　（「学校の先生」をどう考えるか？）	他の学生の意見も受けて，自分の考えを整理・深化する。なお，テーマは学生へのアンケートに基づく。

（４）授業の成果

全体の総括	1. 教育行政・制度論との連携は，不完全ながらも，一定の効果を挙げたように思う。なお，学生が作成したレポートには，教育原理論，教育行政・制度論の双方において，「あちらの授業ではこう考えたが，他の学生や，先生の意見を聞いて，このように考え直した」，という趣旨の記述が散見された。 2. 本授業は古典的な講義がかなりの時間を占めた（教員免許状の取得との兼ね合いで，或る程度は不可避なことのようにも思われるが)。少なくとも幾らかはそのせいでもあろう，一部に，小レポートの作成時以外の時間に居眠りをしたり，他の授業で課された課題を解いたりする学生も居た。 3. 学生の予習・復習の状況は，残念ながら芳しくない。Webclass に講義資料を事前にアップロードしたが，事前にアクセスする学生は，とくに後半は 15-20 名程度，授業中・事後に初めてアクセスする学生を加えても 30 名程度だった（友人に印刷してもらっている学生もいるが)。
今後の改善点	1. 他の授業との連携をより深めること。教育行政・制度論以外の授業とは，内容の重複が作りにくいが，もう少し模索できるだろう。また，教育行政・制度論との連携も，より深めることができるように思われる。 2. 半ば意図したことではあるが，その意図以上に，この授業単体で「アクティブ」な学習，「主体的」な学習を行うことができていない。たとえば，小レポートをグループ単位で評価し合う，グループ単位で他のグループに向けて意見の紹介をする，など

	の活動を取り入れるなどしてよい。クリッカーを活用すべき場面もあっただろう。その他の点についても，「事例集」などから学んでいきたい。（ただし，根本的には，受講人数が多すぎることもあって，一定程度の知識の伝達・解説を放棄することなく，「アクティブ」な活動をする時間は取りづらい）。 3. 学生の予習・復習については，授業者が予習・復習の「必然性」を用意する工夫が必要だろう。（しかし，学生が履修している授業の数からしても，学生の学習・生活状況からしても，全ての授業においてしっかりと予習・復習させるのは，限界もあるように思う。）

（5）アクティブ・ラーニングの充実に向けた提案

ポイント提案	1.　モジュール単位，ないしは複数の授業単位で「アクティブ・ラーニング」を仕組むという取り組み，あるいは授業間で連携（ないし分業）し合うという取り組みは，それが無理なく可能であれば，学生にとっても，教員にとっても，有益であろう。なお，一定程度の知識を伝達・解説する必要がある授業（学生が活動する時間を，正規の授業時間内に十分に確保し難い授業）においては，「連携（ないし分業）」は，とりわけ有効になるかもしれない。 2.　「アクティブ・ラーニング」を支える要素として，十分な予習・復習，課外のグループワーク，等が挙げられよう。しかし，学生の多くは，そのための条件に恵まれているとは言い難い。アクティブ・ラーニングをより効果的に機能させるためにも，その「恵まれていない」点について，もう少し留意してもよいように思われる。（大学生が置かれた学習・生活環境を改善できないならば，理想的な環境を仮定することなく，現状に見合った方策も考えるべきだろう）。なお，この論点は，1 に掲げた論点とも関わるかもしれない。　〔以下，少なからぬ長崎大学の学生が置かれた，あるいは少なからぬ日本の大学生が置かれた，「恵まれていない」状況に関して，その一部を挙げておく。たとえば，アルバイトをかなりの時間せざるをえない者が少なくない（授業料の高額化や，日本学生支援機構の「奨学金」が唯のローンに過ぎないこと等々は，その原因の一つだろう）。とりわけ 1-2 年生は，就職活動等も考えて，相当数の授業を履修せざるをえない。時間的な余力がない場合はとりわけそうであろうが，複数のキャンパスに所属する受講生が居る授業における課外のグループワークは，取り組みにくい。まだまだ大人数の授業が多く，そうした授業では，個々の学習に対するサポートに限界がある。等々。〕
参考になる資料	長崎大学の「アクティブラーニング事例集」